

湘語蔡橋方言のヴォイス表現について —前置詞「担」、「把」、「着」を中心に

王 振宇

アブストラクト

本論文は湘語蔡橋方言におけるヴォイスを表す前置詞“担”、“把”、“着”を考察したものである。3者はいずれも動詞に由来するものであり、それぞれプロトタイプの意味用法を持つと同時に、意味の拡大を遂げている。まず、「手に取る、持つ」を意味する動詞から抽象化してきた前置詞“担”は処置文マーカ―のみならず、受身文マーカ―としても働いている。ただし、“担”が受身文マーカ―として働くのは無情物主語の場合に限っており、積極的に動作行為を行う主語の場合、受身文マーカ―にはならない。次に、「与える」を意味する動詞に由来を持つ前置詞“把”は受益文マーカ―をプロトタイプの用法としながら、処置文マーカ―としても使える。“担”に比べて使用範囲が狭い。動詞の直前に立つことができないなどの制限を受ける。最後に、“着”は主語が有情物であれ、無情物であれ、受身文マーカ―として働き、非対格動詞述語の場合にも使われる点において北京語の前置詞“被”と異なっている。

キーワード: 漢語方言、湘語、前置詞、ヴォイス表現

本論文では蔡橋方言のヴォイス表現について記述する。蔡橋方言は中国七大方言の一つ、湘語の下位方言であり、有声音子音など古い中国語の特徴を数多く残す方言である。蔡橋方言の詳細については王振宇（2009）を参照されたい。本発表で使用した蔡橋方言のデータは2007年8月から9月にかけて、筆者が蔡橋郷で行った方言調査に基づいたものである。インフォーマントの基本情報は次のとおりである。性別: 男。年齢: 52 歳。出身地: 湖南省邵陽県蔡橋郷落馬村。長期外出歴: なし。職業: 小学校教員。教育程度: 高校。話せる言語: 蔡橋方言; 標準語。蔡橋方言のヴォイス表現に関わる前置詞として、“担” ([tã⁵⁵])、“把” ([ba¹³])、“着” ([tɕio⁵⁵]) が挙げられる。本稿では、この3つの前置詞の意味・用法についてそれぞれ考察していく。

1. “担”

蔡橋方言では、“担”は本動詞と前置詞の両方として用いられている。まず、本動詞の“担”は次の例のように、「手に取る」、「持つ」の意味を表す。

(1) 你 担 楼梯 来。

あなた 持つ はしご COMP¹

〔はしごを持ってきなさい。〕(你拿楼梯来。)

(2) 六只 鴨, 担 回来 死 刮 两只。

六羽 アヒル 持つ COMP 死ぬ PART 二羽

〔六羽の鴨を買ったが、持って帰ってきたら二羽が死んだ。〕(六只鸭子拿回来死了两只。)

(3) 己 担 起 两百 块 钱 把 我。

彼 持つ ASP 二百 元 お金 与える 私

〔彼は二百元を持ってきて私にくれた。〕(他拿了两百块钱给我。)

動詞“担”が抽象化した結果、例(4)、(5)のような道具格を導く前置詞に変化し、「～で、～を用いて」の意味を表す。道具格マーカ―の“担”は動詞の“担”と次のように相違する。動詞の“担”が結果補語やアスペクト助詞などの成分を伴うことができるのに対して、道具格マーカ―の“担”はそれらの成分を伴うことができない。

¹ 本稿で使用する略語について、ASP はアスペクト助詞、COMP は補語、DO は直接関与者、IO は間接関与者、MOD は語気助詞、NEG は否定詞、PREP は前置詞を表す。

文型(I) S+ “担” +N+V

- (4) 我 手 摸 嗯 倒, 担 脚 踩。
私 手 触る NEG COMP で 足 踏む
[私は手で届かないので、足で踏む。] (我手没不到、用脚踩。)
- (5) 没得 钱 坐 车, 担 行 去。
ない お金 乗る 車 で 歩く 行く
[車に乗るお金がないので、歩いていく。] (没钱坐车, 走着去。)

さらに、道具格マーカーの“担”は動作の受け手(受動者)を導入する前置詞に変化する。

文型(II) S_{動作者}+ “担” +N_{受動者}+VP

- (6) 己 担 老鼠子 攀 屋 里 去 刮。
かれ PREP ネズミ 追い払う 部屋 中 いく ASP
[かれはねずみをあの部屋に追い払っていった。] (他把老鼠都赶到房里去了。)
- (7) 己 担 别家 屋 烧 刮。
彼 PREP 他人 屋敷 燃やす ASP
[かれは人の家を燃やした。] (他把人家房子烧了。)

このような文型は北京語の「把」構文に相当するものであり、「処置文」とも呼ばれる。

処置文とは、「主体が受動者能動的に働きかけることによって客体に位置の移動や状態変化を起こさせる(張伯江(1998)、木村英樹(2000)訳)」類の文をいう。処置文の述語には一般、結果補語を伴った「動補構造」が用いられている。これは、動補構造を求めない道具格マーカーの“担”と異なっている。

そして、同じ処置文でも下に挙げる文型(IIa)のような、受動者(N)が省略される場合もあれば、(IIb)のように“担”の前に「担」+ N_{受動者}が用いられる場合もある。

文型(IIa) S_{動作者}+ “担” +VP

- (8) 嗯滴 衣衫 我 没 要 哩, 你 一 担 洗 起。
それら 服 私 NEG 要る MOD あなた また PREP 洗う COMP
[それらの服は要らないのに、あなたがまた洗ってしまった。] (那些衣服我不要了, 你又把它洗了。)
- (9) 桶桶 里头 没 打 倒 水, 己 一 担 放 开。
バケツ 中 NEG 汲む COMP 水 彼 また PREP 放す COMP
[水をバケツの中に汲めなかったので、彼はまたバケツを放した。] (桶子里没打着水, 他又把它放开。)

このように、蔡橋方言では、受動者マーカー“担”が動詞の直前に置かれることになる。これに対して、北京語(例(10))では、受動者が文頭に立つ場合、“把”の後ろに代詞を用いて、受動者主語を受け直す必要があり (a)。“把”を動詞の直前に置くことは決して許されない (b)。

- (10) a. 那些 作业 小李 担 它们 都 写 完 了。
 それら 宿題 李君 PREP それら 全部 書く 終わる ASP
 (李くんはそれらの宿題をすべて完成させた。)
- b. *那些作业小李担写完了。

文型(IIb) S_{動作者} + “担” + N_{受動者} + “担” + VP

- (11) 己 担 头丝 担 扒开。
 彼 PREP 髪の毛 PREP はじきのける
 [彼は髪の毛をはじきのける。] (他把头发拨开。)
- (12) 你 担 果滴 菜 担 煮 倒。
 あなた PREP これら 料理 PREP 煮る COMP
 [このおかずを煮なさい。] (你把这些菜煮了。)
- (13) 我 担 果 衣衫 担 当 刮 算哩。
 私 PREP この 服 PREP 質入する ASP やめにする
 [これらの服を質入れしよう。] (我把这些衣服当了算了。)

以上、道具格マーカー“担”を用いた文、処置文はいずれも主語が動作者（仕手）として働く。この点は次の文型（III）と大きく相違している。

文型(III) S_{受損者} + “担” + N + VP

文型(III)では、主語(S)が動詞の表す動作の動作主ではなく、“担”の後ろの(N)と「所属関係」、もしくは「同一関係」にある。(S)と(N)が「同一関係」もしくは「所属関係」であるからこそ、動作、行為による影響、損失などが(N)にだけ与えられるのではなく、主語にも及ぶわけである。“担”は変化の主体を導く役割である。

- (14) 己 担 脚 燙 着 哩。
 彼 PREP あし やけどする COMP MOD
 [彼はあしに焼けどした。] (他把脚烫伤了。)
- (15) 己 岁 多 滴仔, 担 爷老子 死 刮。
 彼 一歳 余り 少し PREP お父さん 死ぬ COMP
 [彼は一歳のころ、お父さんに死なれた。] (他一岁多一点儿、父亲就死了。)

(14)では、“燙却”（やけどする）という変化の主体が“脚”（あし）である。その変化は必ずしも主語“己”（かれ）の働きかけによる事態ではない。他人の行為による被害の可能性も考えられる。このような場合、主語の“己”は“燙着”（やけどする）の動作者ではなく、“脚”（あし）と同一関係をもつ、“燙着”の被害を被る「受損主語」である。同様に、(15)では、“死”（死ぬ）の主体が“爷老子”（お父さん）であり、“己”は“死”の事態の成立に直接的な関係を持たず、文の含意から損失を被る「受損主語」である。こういった「受損主語文」における“担”は受動者主語文(文型(V))に用いることができる。

文型(IV) S_{受動者} + “担” + VP

この文型における“担”は受動専用の前置詞“着”に置き換えることができる。たとえば、

- (16) 新 買 個 車 担 賣 刮。 (= 新买个車又着賣刮。)

新しい 買う PART 車 PREP 売る ASP

[新しく買った車がまた売られてしまった。] (新买的車又卖了。)

- (17) 米滴 錢 担 交 到 医院 里。 (= 米滴錢着交到医院里。)

それら お金 PREP 支払う に 病院 なか

[それらのお金は病院に支払われた。] (那些錢交到医院。)

- (18) 米 手 是 生孽 担 爆 斷 個 吶。

あの 手 である いたずら REP 爆発する 折る PART MOD

[あの手はいたずらによる爆発で折ったのだ。] (那手是惹事炸断的。) (= 米手是生孽着爆断个吶。)

文型 (IV) のような受動者主語文に、動作主を“担”の後ろに加えても、受身文としての理解が変わらない。次のような文型 (V) になる。

文型 (V) S_{受動者} + “担” + N_{動作者} + VP

- (19) 新 買 個 車 担 己 賣 刮。 (= 新买个車又着己賣刮。)

新しい 買う PART 車 PREP 彼 売る ASP

[新しく買った車がまた彼に売られてしまった。] (新买的車又被他卖了。)

- (20) 米滴 錢 担 己攤人 交 到 医院 哩。 (= 米滴錢着己攤人交到医院里。)

それら お金 PREP 彼ら 支払う に 病院 MOD

[それらのお金は彼らによって病院に支払われた。] (那些錢被他们交到医院了。)

文型 (V) では、“担”は動作者を導入する受身文前置詞として機能している。ただし、“担”を動作者マーカールと理解できるのは、積極的に働きかけることができない無情物主語の場合に限っている。たとえば、“車” (くるま) と“賣刮” (売ってしまった)、“錢” (お金) と“交” (支払う)、“手” (手) と“爆斷” (爆発で切れた) の関係を見ると、いずれも前者 (主語) は後者の影響を受ける対象にしかならず、消極的な関与者である。一方、積極的に働きかけることができる主語の場合は、“担”は後ろの人・物を動作者とマークすることができず、受動者として導入する。たとえば、(21)a では、“我人” (私たち) は“新买个車” (新しく買った車) の動作主であるが、一方、(21)b では、“新买个車” (新しく買った車) は“我人賣車” (私たちが車を売る) 行為の受動者と理解することしかできない。

- (21) a. 新 買 個 車 担 我人 賣 刮。

新しい 買う PART 車 PREP 私たち 売る ASP

[新しい車は私たちに売られてしまった。] (新买的车被我们卖了。)

- b. 我人 担 新 買 個 車 賣 刮。

私たち PREP 新しい 売る PART 車 売る ASP

[私たちは新しく買った車を売ってしまった。] (我们把新买的车卖了。)

このような「受動者主語文」における“担”は先述した「受損者主語文」における“担”の意味の延長線にあると考えられる。両者を用いる文はいずれも主語が積極的に動作、行為に関与しない点で共通している。以上、“担”は道具格マーカール、受動者マーカール、受損者マーカール、動作者マーカールとして働く。このうち、受動者をマークする機能は“担”におけるプロトタイプの用法である。

2. “把”

蔡橋方言では、“把”は本動詞と前置詞の両方の用法がある。まず、本動詞としての“把”は「与える」の意味を表し、次のような(I)型～(III)型の文型に用いられる。

文型(I) S+“把”+IO+DO

(22) 己 把 刮 我 两百块 钱。

彼 与える ASP 私 二百元 お金

[彼が私に二百元をくれた。](他给了我两百块钱。)

(23) 己 身体 没 好, 你 千决 莫 把 己 烟。

彼 からだ NEG 良い あなた 絶対に NEG PREP 彼 タバコ

[彼の体調がよくない。彼に絶対タバコをあげないで。](他身体不好, 你千万不要给他烟。)

文型(II) S+VP+DO+“把”+IO

文型(II)は2つの動詞述語(VPと“把”)が連なる「連動文」である。(VP)が授与の意味を含意する動詞であってもよいし、含意しない動詞でもよい。

(VP [+授与])

(24) 己 送 刮 一本书 把 我。

彼 贈る ASP 一冊 本 与える 私

[彼は一冊の本を私に贈ってくれた。](他送了一本书给我。)

(VP [-授与])

(25) 己 [nye¹¹] 刮 一件 衣衫 把 我。

彼 縫製する ASP 一枚 服 与える 私

[彼は私に一枚の服を縫ってくれた。](他缝了一件衣服给我。)

文型(III) S+VP+“把”+IO+DO

文型(III)の“把”も事物の授与を表す動詞である。“把”の前の動詞(VP)が授与の意味を表す動詞であってもよいし、表さない動詞であってもよい。(III)に相当する文型が北京語にも用いられる(「S+VP+“给”+IO+DO」)が、北京語では授与の意味を表す動詞でなければならない。

(VP [+授与])

(26) 己 送 把 我 一本书。

彼 贈る 与える 私 一冊 本

[彼が私に1冊の本をくれた。](他送给我一本书。)

(27) 我 卖 把 己 一只 猪。

私 売る 与える 彼 一頭 豚

[私は彼に一頭の豚を売った。](我卖给他一头猪。)

(VP [-授与])

(28) 己 打 把 我 一件 绒索衣衫。

彼 編む 与える 私 一枚 セーター

[彼が私に一枚のセーターを編んでくれた。]

(北京語：*他打给我一件毛衣。→他给我打一件毛衣。/他打一件毛衣给我。)

(29) 我 倒 把 己 一杯 茶。

私 注ぐ 与える 彼 一杯 お茶

[私は彼に一杯のお茶を入れた。]

(北京語：*我沏给他一杯茶。→我沏一杯茶给他。我给他沏一杯茶。)

そして、「把」+IO」を直接目的語(DO)の前から、動詞の前に移動することもできる。すると、次の文型(IV)になる。

文型(IV) S+ “把” +IO+VP+DO

(30) 我 把 己 倒 刮 一杯 茶。

私 PREP 彼 注ぐ ASP 一杯 お茶

[私は彼に一杯のお茶を入れた。](我给他倒了一杯茶。)

文型(IV)と文型(I)～(III)の間には、次のような2つの相違点がある。

一つは、(I)～(III)は動詞句と“把”が連なった連動構造であり、両者の配順が動作の生起順序を表している。それに対して、(IV)型では、“把”と動詞句の配順が動作の生起順序を示さないという相違がある。この文では、“倒茶”(お茶を注ぐ)の動作が先に行われたが、“把己”(彼に与える)の後ろに置かれる。もう一つの相違点は、後者がもっぱら事物の授与を表すための表現であるのに対して、前者は必ずしも事物の授与を表すとは限らない。たとえば、

(31) 己 把 我 卖 刮 座 屋。

彼 PREP 私 売る ASP 棟 屋敷

[彼が私の代わりに一棟の屋敷を売った。](他替我卖了一座房子。)

(32) 我 把 己 在 米里 做事。

私 PREP 彼 に そこ 働く

[私は彼のためにあそこで働いている。](我给他在那儿工作。)

(31)では、主語“己”(彼)は“卖屋”(部屋を売る)の動作者であり、“我”(私)は、“屋”(部屋)の受け取り手ではなく、“卖屋”という行為の「受益者」である。(32)においても、“己”(彼)は、“事”(仕事)を受け取った人ではなく、“做事”(働く)という行為がもたらす利益にあずかる「受益者」である。これらの文における“把”の働きは、事物の受け取り手を導くのではなく、動作・行為による利益の「受益者」を導くことである。こういった「受益者」マーカーの“把”は受益者とともに動詞句(VP)の後ろに移動することができない。もしその位置に移動したら、“把”は文型(II)のような「与える」を意味する動詞になる(例(33))、あるいは非文になる(例(34))。

(33) 己 卖 刮 座 屋 把 我。(≠(31))。

彼 売る ASP 棟 屋敷 動詞=与える 私

[彼は一棟の屋敷を私に売った。](他卖了座房子给我。)

(34) *我 在 米里 做事 把 己。

私 に そこ 働く PREP 彼

以上のように、文型(IV)における“把”の働きは、事物の受け取り手を導くことではなく、動作、行為の受益者を導くことにある。“把”は「～に代わって、～のために」の意味で用いられる前置詞であると考えられる。したがって、文型(IV)は次のように改めるべきと考える。

文型(V) S_{動作者} + “把” + N_{受益者} + VP

文型(V)では、主語(S)は(N)に利益をもたらす人物であり、同時に動詞述語(VP)の表す動作、行為を行う主体でもある。一方、次のような文では、動作、行為(VP)の主体が(N)に担われている。

(35) 你 先 回 去, 把 己 在 果里 看 倒。

あなた 先に 帰る いく PREP 彼 で ここ 見る ASP

〔先に帰りなさい。彼にここで見張らせて。〕(你先回去, 让他在这儿看着。)

(36) 己 絆蛮 要 过 去, 我 就 把 己 过 去 哩。

彼 無理やりに ～たがる 渡る いく 私 ～なら～ PREP 彼 渡る 行く MOD

〔彼はどうしても向こうに渡りたがったので、私は彼を通らせた。〕(他怎么也要过去, 我就让他过去了。)

この二文では、動作行為“在果里看倒”(ここで見張っている)、“过去”(通る)の主体は主語(S)ではなく、(N)の“己”(彼)である。この関係を文型に示すと次のようになる。

文型(VI) S + “把” + N_{動作者} + VP

先述した文型(V)では、主語(S)は(N)に利益をもたらそうとして、自ら行動するという積極的な働きをみせている。一方、文型(VI)では、主語(S)が(N)を「許容」して、(VP)を遂行しようと(N)にさせるという使役関係を表しているの、木村英樹(2000)に倣って「許容使役文」と名づける。主語(S)が(N)に対し一切積極的な行動を取らず、消極的な関与の仕方をみせる。こういった消極的な関与には「行動を妨げない」という意味も読み取られるため、(N)にとっては「許容」になり得るものであると考えられる。「許容」は行為の執行を認めることであり、前述の受益文における「利益」と接点をもつ。

最後に、次のような処置文に用いられる“把”について見る。

(37) 己 屋 个 狗 把 我屋 个 鸡 咬 死 刮 哩。

彼 家 PART 犬 PREP 私家 PART 鶏 噛む 死ぬ ASP MOD

〔彼の家の犬は私の家の鶏を噛んで死なせた。〕(他家的狗把我家的鸡咬死了。)

処置文は「主体が能動的に働きかけることによって客体に位置の移動や状態変化をおこさせる」(張伯江(1998)、木村英樹(2000)訳)という意味機能を持つ文とされている。処置文の主語は動詞の表す動作、行為の主体であり、この点において文型(V)と共通している。違いは、処置文には客体の結果状態が必ず含まれており、その主体は“把”の後ろの名詞である。上掲の文では、“己屋个鸡”(彼のうちのニワトリ)は“咬死”(噛んで死なせる)における“咬”(噛む)の動作の目的語であり、“死”(死ぬ)の状態の主体でもある。

文型(VII) S_{動作者} + “把” + N_{受動者} + VP

“把”は「受益文」に用いられた場合、利益を(N)に「与える」ことを、「処置文」に用いられる場合、損失などの影響を(N)に

「与える」ことをそれぞれ表す。利益であれ、損失であれ、「与える」という意味上の接点こそ、「把」が処置文、受益文の両方の文型にも用いられる動機であると考えられる。

3. “着”

蔡橋方言の“着”([tɕʰio⁵⁵])は結果補語、前置詞の2つの意味用法がある。まず、結果補語としての“着”は次のように使われており、動詞が表す動作、行為による影響で、「けが」や「病気」、「精神的ショック」などのダメージを被ることを表す。この場合、ストレスを失って軽声となっている。

- | | |
|---------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| ① “打着” ([tɕʰa ⁵⁵ tɕʰio ⁵]) [打たれてけがをする] | ⑥ “捞着” ([nau ⁵⁵ tɕʰio ⁵]) [けがをする] |
| ② “冻着” ([tɔŋ ³³ tɕʰio ⁵]) [冷える] | ⑦ “踩着” ([tsʰa ⁵⁵ tɕʰio ⁵]) [踏まれてけがをする] |
| ③ “煞着” ([ɲa ³³ tɕʰio ⁵]) [やけどする] | ⑧ “淋着” ([nei ⁵⁵ tɕʰio ⁵]) [雨に降られて病気になる] |
| ④ “割着” ([kie ³³ tɕʰio ⁵]) [切られる] | ⑨ “吹着” ([tɕʰi ⁵⁵ tɕʰio ⁵]) [風に吹かれて病気になる] |
| ⑤ “压着” ([ŋa ³³ tɕʰio ⁵]) [押しつぶされる] | ⑩ “讲着” ([kaŋ ⁵⁵ tɕʰio ⁵]) [厳しく言われて不快な状態になる] |

次に、前置詞の“着”について考察する。前置詞としての“着”は動作者を導き、次のような受身文を構成することができる。

文型 (I) S_{受動者} + “着” + N_{動作者} + VP

- (38) 果 双 鞋子 着 己 穿 泻 刮。
 この 足 靴 PREP 彼 履く 破れる ASP
 [この靴は彼に長く履かれて破れてしまった。] (这双鞋被他穿破了。)
- (39) 屋 着 己 扫 得 干干净净。
 部屋 PREP 彼 掃除する PART 綺麗だ
 [部屋は彼に綺麗に掃除された。] (房间被他打扫得干干净净。)

受身文では、主語(S)が(N)の受動者であると同時に、動作、行為(VP)がもたらした結果状態の主語でもある。たとえば、(38)、(39)では、主語「鞋子」(靴)、「屋」(部屋)はそれぞれ結果状態「泻」(ぼろぼろになる)、「干干净净」(きれいだ)の主体である。このような結果状態は動作、行為「己穿」(彼が履くこと)、「己扫」(彼が掃除すること)によって引き起こされたと考えられる。

ただし、受身文において、焦点化されるのは主語の位置に立つ受動者、およびその状況を表す結果補語であり、“着”の後ろにある動作者ではない。つまり、「受身文」(＝木村英樹(2000)に所謂「受影文」)においては、「<働きかけ>と<結果>の局面のうち、後者が焦点化され、その原因となる前者の方は前提化されていると考えられる。あるいは、結果としてのナリ的状況が前景化され、スル的動作・行為は背景化されていると言い換えてもよい(木村英樹(2000))」。

受身文では動作者がよく省略される。背景化されているためである。次のように、“着”は動詞と直接につながることもある(括弧の中は省略できる動作者)。

文型 (II) S_{受動者} + “着” + VP

- (40) 我 今天 着 (你) 害 死, 饭 都 没 赶 倒。
 私 今日 PREP (あなた) 損害を与える COMP ご飯 さえ NEG 間に合う COMP
 [私は今日 (あなたに) 邪魔されたせいで、ご飯さえ間に合わなかった。] (我被害死了、饭都没赶到。)
- (41) 我 着 (己) 撕 烂 一本 书。

私 PREP (彼に) 引き裂く 破れる 一冊 本

[私は本を破られた。](我彼撕破了一本书。)

さらに、“着”は次のような非対格動詞述語の場合にも使われている。この二文では、“霉爛”(カビで破れてしまった)、“死刮”(死んでしまった)の結果状況は、動作者の直接の働きかけによってなされたものではない。したがって、北京語では受身文の動作者マーカー“被”はこのような場合には用いられない。

(42) 一件 好 衣衫 着 霉 爛 刮。

一枚 良い 服 PREP カビが生える 破れる ASP

[一枚のいい服なのに、カビで破れてしまった。](*一件好衣服被霉爛了。→ 一件好衣服霉爛了。)

(43) 一笼 鴨 尽 着 死 刮。

一かご アヒル すべて PREP 死ぬ COMP

[一かごのアヒルが全部死んでしまった。](*一笼鸭子都被死了。→ 一笼鸭子都死了。)

4. まとめ

以上、蔡橋方言の前置詞“担”、“把”、“着”の意味用法について考察した。これらの前置詞を用いた文の種類をまとめると、次表になる。

表1 前置詞“担”、“把”、“着”を用いる文型

前置詞	処置文	受益文	許容使役文	受身文
把	○	○	○	×
担	○	×	×	○
着	×	×	×	○

この3つの前置詞のうち、“把”は受益文マーカーをプロトタイプの用法に持ち、処置文、許容使役文に使用されることもある。“着”はもっぱら受身文マーカーとして働く。“担”は“把”と“着”の何れとも接点をもち、処置文を構成することもできれば、受身文を構成することもできる。“担”、“把”、“着”はいずれも動詞から派生した機能語である。語彙的な意味が抽象化しているが、抽象化の度合いや派生した用法機能は本動詞の語彙の意味によって相違している。たとえば、“担”も“把”も処置文に使えるが、“担”が動詞の直前に現れた場合には、“把”は直接に動詞と繋がることができない。

(44) 米 件 衣衫, 我 担 洗 干浄 哩。

あの 枚 服 私 PREP 洗う きれい MOD

[私はあの服をきれいに洗った。](那件衣服我洗干净了。)

(45) *米 件 衣衫, 我 把 洗 干浄 哩。

あの 枚 服 私 PART 洗う きれい MOD

参考文献

鮑厚星・崔振華・沈若云・伍云姬 (1998) 『長沙方言研究』 湖南教育出版社

儲澤祥 (1998) 『邵陽方言研究』 湖南教育出版社

木村英樹 (2000) 「中国語ヴォイス構造化とカテゴリ化」『中国語学』(247)

彭澤潤 (1998) 『衡山方言研究』 湖南教育出版社

佐々木勲人 (1997) 「中国語における使役と受動の曖昧性」『ヴォイスに関する比較言語学的研究』 三修社

伍云姬 (1998) 『湖南方言の介詞』 湖南师范大学出版社

- 王振宇 (2009) 「蔡橋方言における母音の変遷について」『地域政策科学研究』(6号) 鹿児島大学人文社会科学研究科
- 张伯江 (1998) 「论汉语“把”字句的句法隐喻」首届汉语语言国际学术讨论会提交论文